

事項	<h2>令和7年度緑の現況調査の結果について</h2>																																																																																													
内容	<p>1 趣旨</p> <p>本市では、緑のまちづくり施策の基礎資料とするため、緑のまちづくり条例に基づき5年ごとに緑の現況調査を実施しています。今年度実施した調査の結果をお知らせします。</p> <p>2 調査結果</p> <p>(1) 緑被率調査</p> <p>平成2年度から実施しており、今回が8回目の調査です。本市全域の緑被地面積は6,667.79haであり、緑被率は20.4%でした。前回調査の令和2年の7,021.36ha、21.5%と比較すると、5年間で353.57ha、1.1ポイント減少しました。</p> <table border="1"> <caption>緑被率調査の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>樹林地 (ha)</th> <th>芝・草地 (ha)</th> <th>農地 (ha)</th> <th>水面 (ha)</th> <th>合計 (ha)</th> <th>緑被率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成2年</td> <td>4,084.39</td> <td>2,409.07</td> <td>2,232.00</td> <td>1,005.04</td> <td>9,730.5</td> <td>29.8%</td> </tr> <tr> <td>平成7年</td> <td>3,884.60</td> <td>2,324.26</td> <td>1,785.02</td> <td>962.76</td> <td>8,956.64</td> <td>27.4%</td> </tr> <tr> <td>平成12年</td> <td>3,751.61</td> <td>2,125.67</td> <td>1,434.02</td> <td>959.87</td> <td>8,271.17</td> <td>25.3%</td> </tr> <tr> <td>平成17年</td> <td>3,686.11</td> <td>2,111.26</td> <td>1,319.99</td> <td>970.63</td> <td>8,087.99</td> <td>24.8%</td> </tr> <tr> <td>平成22年</td> <td>3,578.87</td> <td>1,853.54</td> <td>1,183.18</td> <td>978.92</td> <td>7,594.51</td> <td>23.3%</td> </tr> <tr> <td>平成27年</td> <td>3,491.26</td> <td>1,678.03</td> <td>1,062.27</td> <td>959.87</td> <td>7,191.43</td> <td>22.0%</td> </tr> <tr> <td>令和2年</td> <td>3,477.67</td> <td>1,720.13</td> <td>851.68</td> <td>971.88</td> <td>7,021.36</td> <td>21.5%</td> </tr> <tr> <td>令和7年</td> <td>3,334.48</td> <td>1,575.45</td> <td>776.50</td> <td>981.36</td> <td>6,667.79</td> <td>20.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>➤ 公有地・民有地の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 平成2年度との比較 <ul style="list-style-type: none"> ・公有地の緑被地は僅かに減少。民有地の緑被地が大きく減少。 ・緑被地全体に占める公有地の割合は増加。(約36% → 約52%) <table border="1"> <caption>公有地・民有地の緑被地の変化</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>緑被率 (%)</th> <th>公有地の緑 (ha)</th> <th>民有地の緑 (ha)</th> <th>合計 (ha)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成2年</td> <td>29.8%</td> <td>3,469.73</td> <td>6,260.75</td> <td>9,730.24</td> </tr> <tr> <td>令和7年</td> <td>20.4%</td> <td>3,442.94</td> <td>3,224.43</td> <td>6,667.37</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ● 令和2年度との比較 <ul style="list-style-type: none"> ・大きな変化は見られないが、公有地に比べ、民有地の緑被地の減少割合が高い。 <table border="1"> <caption>令和2年度との比較</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>緑被率 (%)</th> <th>公有地の緑 (ha)</th> <th>民有地の緑 (ha)</th> <th>合計 (ha)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年</td> <td>21.5%</td> <td>3,473.09</td> <td>3,548.31</td> <td>7,021.40</td> </tr> <tr> <td>令和7年</td> <td>20.4%</td> <td>3,442.94</td> <td>3,224.43</td> <td>6,667.37</td> </tr> </tbody> </table>	年度	樹林地 (ha)	芝・草地 (ha)	農地 (ha)	水面 (ha)	合計 (ha)	緑被率 (%)	平成2年	4,084.39	2,409.07	2,232.00	1,005.04	9,730.5	29.8%	平成7年	3,884.60	2,324.26	1,785.02	962.76	8,956.64	27.4%	平成12年	3,751.61	2,125.67	1,434.02	959.87	8,271.17	25.3%	平成17年	3,686.11	2,111.26	1,319.99	970.63	8,087.99	24.8%	平成22年	3,578.87	1,853.54	1,183.18	978.92	7,594.51	23.3%	平成27年	3,491.26	1,678.03	1,062.27	959.87	7,191.43	22.0%	令和2年	3,477.67	1,720.13	851.68	971.88	7,021.36	21.5%	令和7年	3,334.48	1,575.45	776.50	981.36	6,667.79	20.4%	年度	緑被率 (%)	公有地の緑 (ha)	民有地の緑 (ha)	合計 (ha)	平成2年	29.8%	3,469.73	6,260.75	9,730.24	令和7年	20.4%	3,442.94	3,224.43	6,667.37	年度	緑被率 (%)	公有地の緑 (ha)	民有地の緑 (ha)	合計 (ha)	令和2年	21.5%	3,473.09	3,548.31	7,021.40	令和7年	20.4%	3,442.94	3,224.43	6,667.37
年度	樹林地 (ha)	芝・草地 (ha)	農地 (ha)	水面 (ha)	合計 (ha)	緑被率 (%)																																																																																								
平成2年	4,084.39	2,409.07	2,232.00	1,005.04	9,730.5	29.8%																																																																																								
平成7年	3,884.60	2,324.26	1,785.02	962.76	8,956.64	27.4%																																																																																								
平成12年	3,751.61	2,125.67	1,434.02	959.87	8,271.17	25.3%																																																																																								
平成17年	3,686.11	2,111.26	1,319.99	970.63	8,087.99	24.8%																																																																																								
平成22年	3,578.87	1,853.54	1,183.18	978.92	7,594.51	23.3%																																																																																								
平成27年	3,491.26	1,678.03	1,062.27	959.87	7,191.43	22.0%																																																																																								
令和2年	3,477.67	1,720.13	851.68	971.88	7,021.36	21.5%																																																																																								
令和7年	3,334.48	1,575.45	776.50	981.36	6,667.79	20.4%																																																																																								
年度	緑被率 (%)	公有地の緑 (ha)	民有地の緑 (ha)	合計 (ha)																																																																																										
平成2年	29.8%	3,469.73	6,260.75	9,730.24																																																																																										
令和7年	20.4%	3,442.94	3,224.43	6,667.37																																																																																										
年度	緑被率 (%)	公有地の緑 (ha)	民有地の緑 (ha)	合計 (ha)																																																																																										
令和2年	21.5%	3,473.09	3,548.31	7,021.40																																																																																										
令和7年	20.4%	3,442.94	3,224.43	6,667.37																																																																																										

➤ 土地利用別の変化

● 平成 2 年度との比較

- ・ 公有地については、公園緑地等の整備などにより増加。
- ・ 民有地については、農地、樹林地等が土地区画整理や宅地化の進展により減少。



● 令和 2 年度との比較

- ・ 全体的に緑被地面積が僅かに減少。
- ・ 特に農地、樹林地等は、他の区分に比べ、土地利用面積の減少幅が大きく、緑被地面積も減少している。



(2) 沿道緑化率調査

都心部エリアにおいて、街を歩く人の目に映る緑として、沿道部の緑化状況の調査を令和 2 年度から実施しており、今回が 2 回目の調査です。沿道緑化率※は 19.1%であり、前回調査の 18.9%と比較すると、0.2 ポイント増加しました。

(※緑化延長／民有地等に接続する道路延長)

3 結果の公表

3 月 31 日より、緑の現況調査（概要版・詳細版）について、名古屋市公式ウェブサイトにて公開します。また、概要版は市民情報センターや各区役所・支所、各区図書館、各土木事務所などで順次配布を開始します。

本件は、令和 8 年 3 月 31 日、市政記者クラブに資料提供します。

～令和7年度 緑の現況調査より～

なごやの緑



令和8年3月
名古屋市

名古屋市緑被地の分布

? 緑被地とは

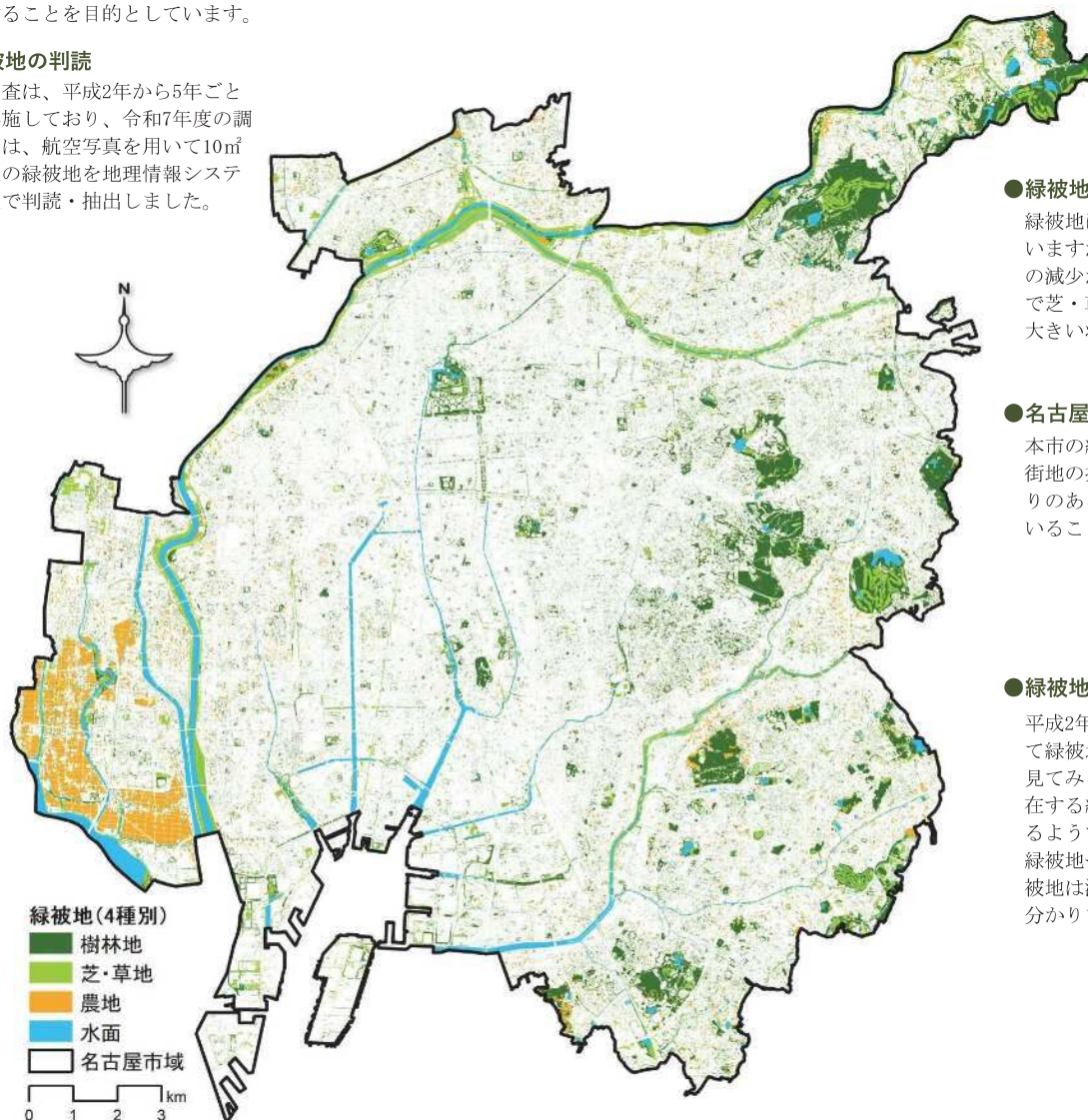
「緑被地」とは、樹木や草で覆われた土地のことで、本市では農地や水面も緑被地としています。市域等の面積に対する緑被地面積の割合「緑被率」から本市の緑の現況を把握することができます。

● 調査の目的

名古屋市では産学官民（事業者、教育・研究機関、行政、市民・NPOなど）のパートナーシップにより“みどりと人がきらめく 自然共生都市・なごや”を目指しています。本調査は、名古屋市の緑の現況、推移を把握するとともに、緑のまちづくり推進に向けた基礎資料とすることを目的としています。

● 緑被地の判読

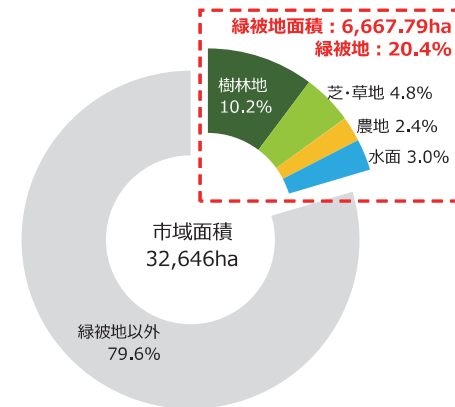
本調査は、平成2年から5年ごとに実施しており、令和7年度の調査では、航空写真を用いて10㎡以上の緑被地を地理情報システム上で判読・抽出しました。



緑被率の現況と緑被地の変化

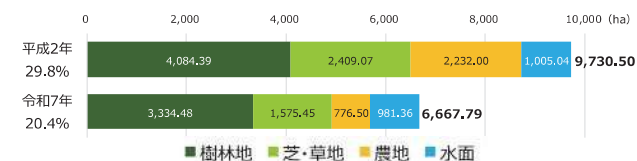
● 名古屋全域全体の緑被率

市域全体の緑被率は20.4%でした。内訳は、樹林地が10.2%、芝・草地在4.8%、農地が2.4%、水面が3.0%でした。



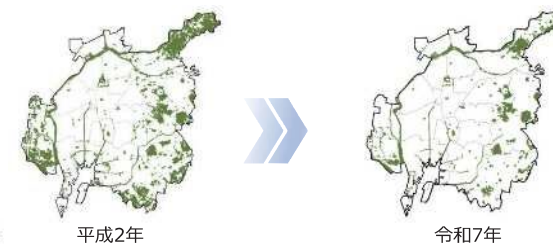
● 緑被地(4種別)の変化

緑被地は全体的に減少していますが、中でも農地の減少が最も大きく、次いで芝・草地、樹林地の減少が大きい状況となっています。



● 名古屋市の緑被地の変化

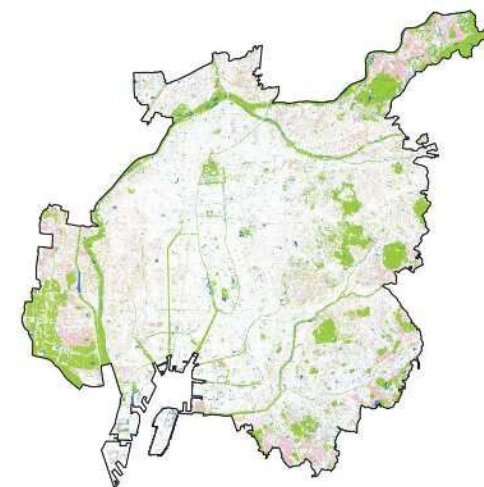
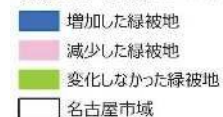
本市の緑の変遷をみると、市街地の拡大とともに、まとまりのある緑の細分化が進んでいることがわかります。



● 緑被地が変化した箇所

平成2年から令和7年にかけて緑被地が変化した箇所を見てみると、まとまって存在する緑被地は残存しているようですが、その周辺の緑被地や比較的小規模な緑被地は減少していることがわかります。

緑被地の増減(H2⇒R7)



緑被地面積の変化

●平成2年から5年ごとの緑被地面積と緑被率

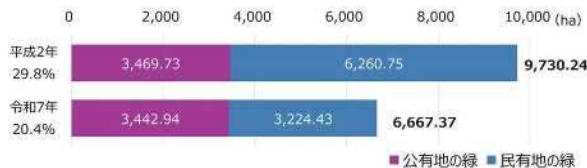
令和7年の本市全域の緑被地面積は6,667.79haであり、緑被率は20.4%でした。
平成2年の9,730.50ha、29.8%と比較すると、35年間で3,062.71ha、9.4ポイント減少したことが分かります。



●公有地・民有地の緑

●変化の概要

民有地の緑被地が大きく減少する中、公有地の緑被地はわずかな減少にとどまりました。それに伴い、緑被地全体に占める公有地の割合が増加しています。



●変化の詳細

公有地の緑 (約27ha減少)

道路やその他の公共施設の緑被地は微減していますが、公園緑地等の緑被地は微増しており、公園緑地等の整備などによるものと考えられます。



公有地の緑 (白川公園)

民有地の緑 (約3,036ha減少)

農地、樹林地等の緑は特に大きく減少しており、土地区画整理事業や宅地化の進展による影響が大きいと考えられます。

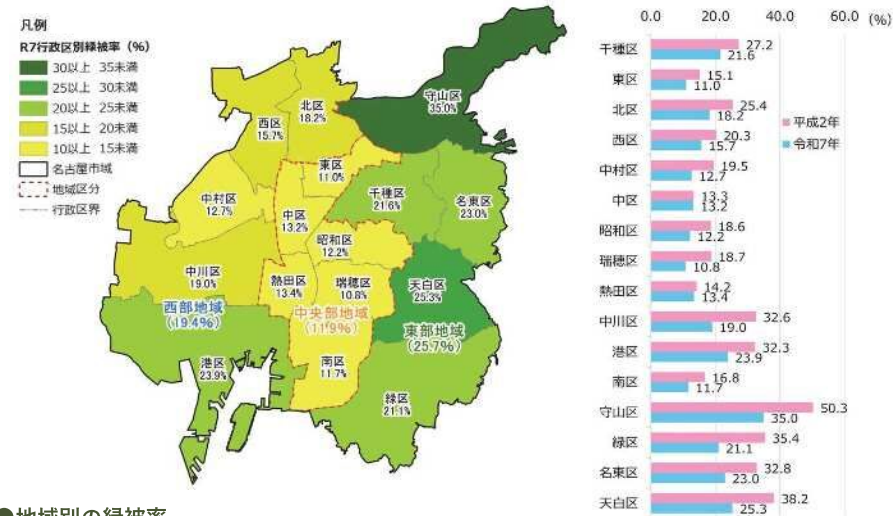
住宅用地の土地利用面積は増加していますが、緑被地面積は減少しています。



地域別の緑被率

●行政区別の緑被率

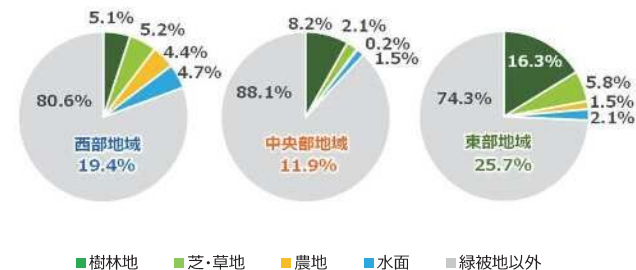
行政区別の緑被率をみると、守山区(35.0%)が最も高く、天白区(25.3%)、港区(23.9%)、名東区(23.0%)などの区で全市平均(20.4%)よりも高くなっており、中央部地域にある区で緑被率が低くなっています。平成2年と令和7年の緑被率を比較すると、全ての区で減少していますが、守山区、緑区、中川区、天白区で減少幅が大きい状況となっています。



●地域別の緑被率

地域別の緑被率は、西部地域が19.4%、中央部地域が11.9%、東部地域が25.7%となり、東部地域の緑被率が高くなっています。これは、主に丘陵地の樹林地が多いためです。

緑被種別は、西部地域は農地や水面が多く、東部地域は樹林地が多く、中央部地域は緑被率は低いものの樹林地の割合は西部地域より高くなっています。



Column》緑被率とグリーンインフラ

公園、農地や樹林地などの緑被地は、自然の力をいかすグリーンインフラとして、環境を守り、地域の魅力を高め、暮らしの質を高める大切な基盤です。

これからの緑のまちづくりにおいては、公有地、民有地を問わず、グリーンインフラを確保していくことが求められます。



Common Nexus (名古屋大学構内)

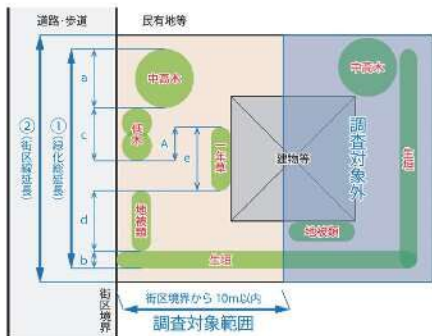
湾曲状の屋根を緑化し、雨を柵に集め、並木沿いの浸透管を通じ地中に浸透させることにより、植栽にうるおいを与えています。

写真提供：東海国立大学機構

名古屋市の沿道緑化の分布

沿道緑化とは

「沿道緑化」とは、街を歩く人の目に映る緑のことで、民有地等に植栽されている緑を指します。本調査では、街区境界から奥行き10mまでの樹木や生垣、プランターだけでなく、高さ10mまでの壁面緑化や緑化フェンス、ベランダ緑化も沿道緑化としています。「沿道緑化率」とは、民有地等に接続する道路（街区線）の延長に対する緑化延長の割合のことです。



沿道緑化の一例



沿道緑化率の現状と変化

調査対象範囲の沿道緑化率は19.1%でした。エリア別にみると名古屋駅エリアが19.0%、伏見エリアが22.3%、栄エリアが16.8%と、伏見エリアが最も高い結果となりました。令和2年の沿道緑化率と比較すると、名古屋駅エリアが増減なし、伏見エリアが0.1ポイント、栄エリアが0.3ポイント増加し、全体では0.2ポイント増加しました。増加の原因としては、令和2年において建設中であった建物に、新たな植栽が整備されたことなどが挙げられます。

沿道緑化の延長

名古屋駅エリア	6.0km
伏見エリア	5.1km
栄エリア	5.5km
総延長	16.6km

例えば、栄エリアの5.5kmは中部電力MIRAI TOWERから熱田神宮までの距離に相当するよ！



- 沿道緑化あり(R7)
- 沿道緑化あり(R2)
- 調査対象路線
- 調査対象区域

調査の目的

本調査は、名古屋市における緑の現状調査の一つとして、街を歩く人の目に映る緑を把握することを目的に、令和2年度から始めました。

計測技術の活用

本調査では、都市再生緊急整備地域（名古屋駅周辺・伏見・栄地域）の街区線総延長約90kmを対象に、MMS (Mobile Mapping System) の計測技術を活用し、沿道緑化率を算出しました。

MMS (Mobile Mapping System) とは

MMSとは、車両に搭載した3Dレーザースキャナや全周画像カメラ（360°カメラ）を使用し、正確な3次元位置情報を付与したカラー画像を取得できるシステムです。

MMSにより、広範囲なデータを効率的かつ高精度に収集でき、ソフトウェア上での緑化延長の計測も可能になりました。



計測機器を搭載した車両

Column 》民有地緑化コンクール なごやグッドグリーン賞

「なごやグッドグリーン賞」は、名古屋市内の民有地の優良な緑化事例を顕彰し、PRすることにより、民有地緑化の普及促進及び質の向上、継続的な維持管理を図ることを目的とした表彰制度です。この取り組みによって目に映る緑の量を増やせ、都市景観への貢献や都市の快適性の向上などが期待できます。

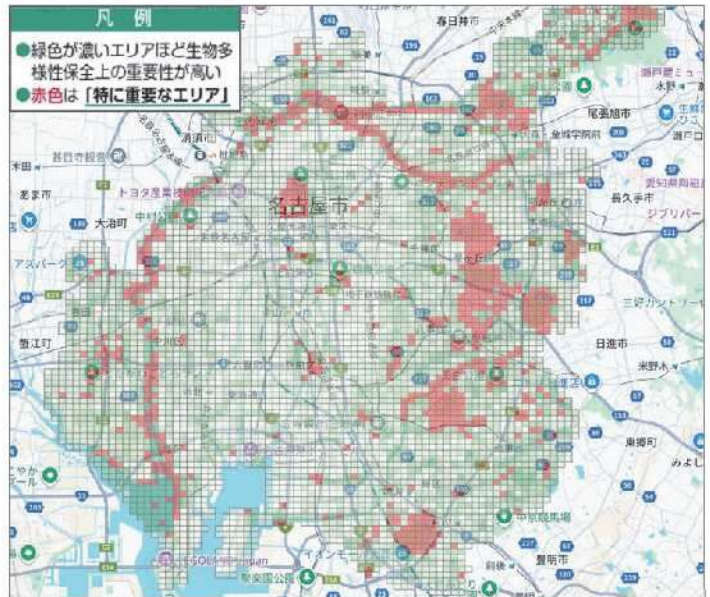


第4回 なごやグッドグリーン賞 受賞作品集

第4回 なごやグッドグリーン賞 大賞 愛知学院大学 末盛キャンパス

緑の機能

- 都市環境を改善します
- 都市の安全性・防災性を高めます
- 美しい都市景観をつくれます
- 心の安らぎや安らぎ、癒しを与えます
- 生きもののすみかや種を維持します



生物多様性重要エリアマップ
(環境局環境企画課)

緑が多い地域は
生きものにとって
大切な場所なんだね



緑を守る仕組みや取り組み

● 樹林地を守る

関係権利者の方々のご協力を
得ながら、法令に基づき樹林
地等が守られています。



風致地区 2,974.4ha (R8.3現在)

都市の風致の維持が必要な区域を指定し、
建築の規制などを行い、緑と調和した住宅地
をめざしています。



特別緑地保全地区 204.0ha (R8.3現在)

自然環境のすぐれている緑地を指定し、建築
行為などの一定の行為を制限して緑地の保
全をはかっています。

● 農地を守る

営農されている方々により、
農地が守られています。
新たな農の担い手となる人材
の育成や、農作業体験・食育
などを通じて農地を守る機運
醸成が重要です。



農業振興地域 896.0ha (R8.3現在)

農業振興を図るべき地域を農業振興地域と
して、さらにその中でも農業利用を推進する
土地を農用地区域として設定しています。



生産緑地地区 178.5ha (R8.3現在)

市街化区域内の農地のうち、一定の要件を
満たす土地を関係権利者からの申し出を受け
て指定しています。

＜発行・お問い合わせ先＞

名古屋市緑政土木局緑地部緑地事業課（市役所西庁舎5階）

電話：052-972-2486 ファクス：052-972-4142

緑の現況調査の詳細は市公式ウェブサイトや区役所情報コーナー、図書館などで閲覧できます。

<https://www.city.nagoya.jp/shisei/keikaku/1010305/1010443/1034238.html>

